

# 玉垂

たまだれ  
No.7



早朝の参道

<http://www.okunijinja.jp/>

## ご挨拶

小國神社 宮司 打田 文博

平成十五年癸未歳の新春を迎え、竹の園生の弥栄を祈念し、氏子崇敬者各位の御健勝と御繁栄をお祈り申し上げます。

正月三ヶ日、殊に元旦は温かくまるで羊の毛に包まれたような感じでしたが、一転四日以後は寒さが戻り寒暖交互の年頭となりました。

さて、昨年は米国のテロ事件後の国際的緊張や北朝鮮による拉致被害者の一部帰国、イラクの核査察、そして北朝鮮の核再開発等、国民を震撼させる事件が多発し、最悪の事態を想像された方も決して少なくなかったと思います。また同時に、拉致事件をはじめ多くの外交問題に対する我国政府の対応に、不満といらだちを感じた人も私を含め多数いたのではないのでしょうか。

「外交」とは、国益増進の為の外国との交渉であって交際で終わってはならないのです。そして交渉には、対立がつきものであることも当然な話です。

以前、書物をきっかけに「文明の対立」という表現がよく使われましたが、これはユダヤ、キリスト、イスラム等、一宗教の原理主義による対立がほとんどです。

このことは、百を越す世界の地域紛争の歴史を見れば明らかです。したがって、この現実に対する危機感や世界意識なのですが、我国では「あえてふれない」か「対岸の火」程度にしか認識しない人等が多く心配です。

一方、我国の宗教事情は多神教です。山川草木に始まり万物に神（八百万の神）が宿り、その恵によって私たちは生かされている、やっばり日本は「神々の国」なのです。

特に自然の恩恵は、すべての生命体に影響を与えています。神々に恵を願ひまた感謝する、これすなわち神社の祭の原点なのです。そして先人たちは、日常生活の中でこの伝統的宗教観を守り伝え

＊ 平成15年 正月の点描 ＊



歳旦祭 (1月1日午前3時)



元旦の参拝



八王子社奉射神事 (1月17日午前9時)



奉納絵馬 (1.5m×2m)



初詣の社頭

て来たのです。  
 昨年、拉致被害者が帰国した折「氏神様のお蔭」と言った父親の姿は印象的でした。  
 昨今、国際化の流れの中で日本の役割が度々取りざたされますが、伝統と文明がみごとに共存している日本の精神文化こそが最大の貢献材料ではないでしょうか。平成十五年も内外共に多事多難な年になりそうです。  
 そもそも、国には国の、地域には地域の、家には家の「かたち」があります。このかたちを大切に事に当たれば、かならず先は開けて来るのです。今、政府主動の市町村合併が進められています。これも文化共同体としての「かたち」が主軸になれば、「ふるさと」としての愛着が湧かないのではと気がかりです。唱歌「故郷」の一節「……忘れがたき故郷」は、歌だけにならないようにと念じております。  
 年頭に際し、所懐の一端を述べご挨拶と致します。  
 (二月七日記)

### 「田遊び神事」を奉仕して

建部 芳久

私たち旧道家、神人の後代の者三十余名が古来の姿をそのままに受継いでいる。古老からの話によると、田遊びは鎌倉時代源氏の勢力下、稲の豊穡を願う民衆の素朴な祈りと政権による勸農政策によって伝わったのではないかと話された。然し確かな証しはない。特徴は極めて簡素であるが稲作の行事を一年の初めて再現し、遠江國一の宮小國神社本殿前の庭で夜に行われた。然し現在は一月三日午後一時より二時三十分頃まで、舞殿にてとり行われている。

昭和三十五年県の無形文化財に指定され、また後に神社境内に社家として勤め人達の御霊を祀る「鉾執社」を造営され祖霊祭が行われている。社家の後代としての意識が高まり、お互いに團結の心が強まり、奉仕する人も以前に益して増えてきたことはよろこばしい限りです。



田遊び神事 (7番 種蒔)

今では二月月上旬、奉仕者の確認と練習会を行い、諸役を大體決め当日の為に意識の高揚を計っている。

当日の衣装は白の上衣・白袴・白足袋・烏帽子、道具は田に見立てる太鼓・種・柳の棒・鼓・牛王等で、飾り気は少なく長々しい詞章が多いが中に狂言風もある。

田遊び行事は十二段にわかれ、一、素鉦、奉仕者全員が太鼓を囲み「田打ち」の詞章を唱う。二、畦走り、二人が扇子を鉦に見立て東西南北を呪文を唱え畦塗りする。三、しろかき牛、二人が牛使い、一人は太鼓に手つき牛の像をなし、牛ほめの詞章を唱う。四、苗草寄、三人で五の苗草蒔まで続けて演じる。六、苗草踏、二人が扇子役、一人が鼓役にて演じる。やや狂言風である。七、種蒔、一人は牛王を持ち詞章を唱え、一人は桶をかかえ「東は大井川、南は海、西は境川、北は信濃」と遠江國一円に蒔く。八、祝詞、五穀豊穡の祈願を奏す。九、苗賛め、一人は牛王を持ち詞章を唱え、一人は太鼓に手をつき牛役を演じる。十、世などよう、二人が水口に立ち、稲をはじめ穀物の豊かに穡った詞章を唱う。十一、鳥追い、全員が太鼓を囲み小桶のふちをたたき、種まきから刈取までの害を追いつく詞章を唱う。十二、歌おろし、小國神社をはじめ多くの神々に感謝の詞章を唱える。

無事十二段の行事が終了し、餅投げを実施するとともに参列した方々と今年の豊年を祝う。奉仕者全員が新しい年をこの行事を境に迎えようこびにひたる。

田遊びを仕え奉りて お正月

### 手新始祭齋行

### 御弓始祭齋行

一月十一日午前九時、社殿工事等の安全を祈る手新始祭がとり行われました。奉仕者は大場喜久司氏他三名で幣殿中央に真薦を敷き、長さ四・五メートル、径十二・三センチメートルの松の角材、その前に、手新、鋸、曲尺、墨壺、鉋を置きます。手新始の儀式は、ホズ穴の寸法を取り、スミツケをし、裁断から仕上げまでの行程をすべて模擬的に行うもので、作法は次の順で行われます。先づ、寸法取り一人が角材に向って左の木口からの寸法を取りスミツケをし三回ずつノコギリで切るまねをする。次に木口の裁断が終ると、次に墨付役二人が寸法を取りスミツケ、スミウチをする。次に棟梁が右中左の順でカンナをかける。次いで手新に打ち替えて、手新の柄を三回撫でた後「ヤー」と掛け声を掛けて右中左の順で三回ずつ削る所作する。次に棟梁が神酒を奉って自席に戻ります。以上が手新始の順です。この神事は「延宝の記録」にも記されており代々宮大工が奉仕され現在に至っています。



手新始神事

一月十七日午前十時、御弓始祭が斎行されました。御弓始祭は、年占、五穀豊穡や武芸上達をご祈願する祭典で特殊神事として奉射神事が行われます。当日は晴天に恵まれ、拝殿向かって右側に設けられた射場に数多くの参拝者が見守る中、厳肅に執り行われました。鳥帽子に直垂といっていたでちの地射手と呼ばれる四名の奉仕者が、室町時代より伝わる日置流の作法でこ奉仕します。ご神前にて清められた羽矢を的めがけ放つと、的の近くでまっている参拝者が放たれた矢を奪いあげました。これは地射手の放った矢を神棚に供えたり、門口に差し立てておく、と魔除けになるといわれるのがその理由です。祭典後、直会に引き続き参列いただいた大弓会の皆様により、競射会が執り行われました。



奉射神事

本年の  
地射手奉仕者  
(敬称略)

- 鈴木要一 (森町円田)
- 藤田陽一 (森町谷中)
- 村松成弘 (森町谷中)
- 河合治郎 (森町天宮)

## 特別寄稿

## 「古代の森―自然と人間との共生」



國學院大學教授 岡田 莊司

神社は古くより、自然景観、鎮守の森のなかから生まれてきたとされる。数ある神社のなかで、小國神社の地は「古代の森」と呼ばれ、その景観をもっともよく伝えてきている。

私は何年か前の晩秋の夕刻、当神社にはじめて参拝させていただいた。拝殿の前まで進む頃には、杉木立が神域を包む暗闇の空間に入り込んだよう、まさに古代の信仰世界を眼前にすることができた。神の姿を見た（感じた）とは、こんなことを言うのだろうか。

遠州平野の奥深いところに、当神社は鎮座する。遠州平野の平地部と赤石山脈につながる山岳地域との接点となる場所であり、その南端部、太田川の流域は弥生時代から古墳時代に、開墾・開墾が進み、水田農耕が営まれるようになる。農業経営において、もともと古代の人々が恐怖に思ったのは、災害であり飢饉であった。それらは人智の及ぶことの出来ない神々の超越した世界の事柄に属した。自然の世界は神々の領域であり、これを侵犯することは、神の怒りに触れ、人々に災いをもたらすことにもなる。そこで自然と開発との調和を保つため、神の聖域と人間社会の空間との棲み分けが確定して

いった。その境界線には神の鎮まる聖域が用意された。

遠州地区の開墾に励んだ人々も、欽明天皇の時代に、この「古代の森」に集まり、その年収穫された最高の品々を神に奉納して感謝の誠を捧げた。古代人は、時として神の怒りに触れることもあり、常に神と人とは緊張関係をもって接していた。神と地域に住む人々との間に立って、神祭りを奉仕する神職は尚更であった。厳しい禁忌が求められ、誠心誠意、神に仕えることが神職の立場とされた。

その時代以来、毎年祭祀が営まれ、年中行事が編成され、丁寧に神の靈威を増進する作法を伝えた。当神社の一月三日の田遊祭は、年の初めに農作業の所作を模擬的に行なう農耕予祝の儀礼であり、四月の十二段舞祭は、遠江一宮祭祀の流れを伝えるもので、ともに中世らしい地域の文化として伝承されてきた。神社には、地域の人々の生活、すべての人間の感情・精神が塗り込められており、地域の文化を構成し担ってきた。

私たち物質文明の社会を謳歌している現代人から見ると、古代の人々の心を読むことは難しい。古代人の心に少し近づくことができたと感じたのは、この「古代の森」の景観に接していたからであった。自然と人間とが通じ合い共生できる信仰の原点を、この地に見ることができた。

## 略歴

昭和二十三年生まれ、國學院大學大学院修士課程修了、

國學院大學神道文化学部教授、歴史学博士。

著書『大嘗の祭り』『平安時代の国家と祭祀』

『古代諸国神社階制の研究』など。

### 新嘗祭齋行並奉納農産物品評会の表彰

去る十一月二十三日午前十時、新嘗祭が齋行されました。殿内には氏子の皆様より奉納されました農産物をお供えし、豊穰の感謝を申し上げました。齋行後には篤志奉納者への感謝状・記念品の贈呈式が行われ、また舞殿横では奉納農産物品評会が開催され、即売が行われました。会場は大変な賑いで瞬く間に完売となりました。ここに本年の品評会のご報告を掲載させていただきます。多くとも厚く御礼を申し上げます。

- 〈協力賞〉
- 第一位 牛 飼部農会
  - 第二位 上川原部農会
  - 第三位 中川上部農会
  - 第四位 谷 崎部農会
  - 第五位 宮代西部農会
- 〈小國神社賞〉
- メロン 米倉 石橋 康利
  - 米 橘 白崎 寧寧
  - 柿 谷中 佐野 近義
  - 大根 赤根 小池まき子
  - 白菜 田田上 鈴木 紀雄
- 〈遠州中央農協賞〉
- 大豆 宮代西 永田 梨翠
  - メロン 米倉 平田 辰美
  - レタス 谷中 鈴木 晃
  - 米 宮代西 花島 幸男
  - 柿 上川原 鈴木 英夫
- 〈小國神社振興会賞〉
- 大根 谷崎
  - 多米 治夫
  - メロン 米倉
  - 山下 忠昭
  - 葱 田田下
  - 鈴木 照男
  - 白菜 中川上
  - 石黒 朝郎
  - 馬鈴薯 中川上
  - 伊藤 公治



奉納農産物品評会

### 篤志奉納の方に感謝状の贈呈

十一月二十三日新嘗祭齋行に併せ、年間に多額の浄財並びに物品等をご奉納賜りました方々に、ご神前において感謝状及び記念品を贈呈し、感謝申し上げます。

ご奉納戴きました御簾は拝殿へ常備し、また浄財は財政特別資金へ奉納させていただきます。さらに神饌米は毎日齋行される日供祭また恒例の祭典にお供えさせて戴いております。ここにご芳名を掲載し、改めて厚く御礼申し上げます。

- 御簾一式 長野 律子他九名(清水市)
  - 浄財 小國やエ子 (森町一宮)
  - 神饌米 山本 時春 (森町中川)
  - 神饌米 小島 三雄 (森町中川)
  - 神饌米 永田 佐吉 (森町一宮)
  - 神饌米 永田 光司 (森町草ヶ谷)
  - 神饌米 鈴木 嘉寿 (森町中川)
- (順不同・敬称略)



神饌米

### 年越の大祓式齋行

十二月三十一日の大晦日、一年間の罪やケガレを祓い、清々しく新年を迎えるため年越の大祓式を齋行致しました。

今回より当社におきましても古式に則り人形を用いての執行となりました。事前に社頭等で案内させていただきました。お申し込み下さいました方々の人形をお祓いし、境内の宮川へ流しお清めを致しました。また、当日は五〇名程のご参列をいただき、神職とともに切麻にて直接身を清められました。

大祓式は年に二回、六月と十二月に行われます。当社では一ヶ月前より主にご祈禱を受けられた方々に直接ご案内申し上げております。また、社頭・HPなどでもご案内致しますのでご希望の方はお申し込み下さい。



大祓式

### 國大・皇大大学生助勤奉仕

三重県伊勢市の皇學館大學と東京都渋谷区の國學院大學の両大学から各三名ずつの計六名の学生が、十二月二十九日から一月六日までの九日間助勤奉仕をされました。

全国の大学の中で神職養成機関を持つのは、皇學館大學と國學院大學の二校だけで、将来神職を目指す学生や神社神道に興味を持っている学生が、神社実務を実際に体験できる貴重な機会として毎年ご奉仕いただいております。

今回もご奉仕初日から白衣に着替え、年末は職員と一緒に正月の準備、年が明けてからは神札や御守等の授与をいたしました。一段段使われないような言葉遣いや今まで経験したことのない仕事ばかりで大変でした。という声も聞かれましたが、皆自分のできる限りの事を一生懸命頑張ってください。無事新年を迎える事ができました。



助勤奉仕の大学生

# まつり歳時記

二月〜五月

## 二月 如月にがひかり

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 節分祭世話人祈祷祭 (午前十一時)
- 三日 節分祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 紀元節祭 (午前十時半)
- 十五日 養老院孝子白山社祭 (午前九時)
- 十五日 塩井神社例祭 (午前十時)
- 十八日 祈年祭 (午前十時)
- 二十日 初甲子祭 (午前九時)



## 三月 弥生やよい

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 真田城跡慰霊祭 (午前十時半)
- 十八日 鉾執社例祭 (午後一時半)
- 三十一日 春季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
- 三十日 さくら祭 (午前十時半)

## 四月 卯月うづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 四日 勸学祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 八日 杉祭 (午前九時)
- 八日 全国一宮等富殿社例祭 (午前十時)
- 十五日 垢離祭 (午前十一時)
- 十七日 献詠祭 (午前八時)
- 十七日 前日祭 (午前十時)
- 十七日 舞揃 (午後二時)
- 十八日 例祭 (午前十時)
- 十九日 氏子入り報告祭 (午後二時)
- 十九日 十二段舞楽奉奏 (午後二時)
- 二十日 十二段舞楽奉奏 (午前十一時)
- 二十日 神幸祭 (午後二時)
- 三十一日 甲子祭 (午前九時)

## 五月 皐月さつき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 五日 こども祭 (午前十時)
- 六日 本宮山青葉祭 (午前十一時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)



### 稚児行列奉仕者の募集

四月二十日(日)午後二時より神幸祭(おわたり)を斎行し、勅使行列・稚児行列を執り行います。

つきましては本年も、行列に参加される稚児を募集しておりますので、ご希望の方は当社までご連絡ください。

#### 募集要項

- 一、対象者 小学校三年生位の男女
- 一、参加費 五、〇〇〇円
- 一、募集人員 先着二十名
- 一、申込締切 四月十日

## 命 名

平成十四年十月一日  
〜平成十四年十二月三十一日

鳥居 美佑	森 町	国京	祐太	磐田市
大石 龍輝	吉田町	中野	元喜	江南市
大河原瑞季	掛川市	鈴木	翔太	豊田町
安井 帆澄	森 町	三上	柚奈	磐田市
小桐 秀介	浜松市	梶山	ひな	浅羽町
秋山 滉貴	浜松市	山本	勝也	掛川市
伊藤 慎	大東町	杉山	温紀	掛川市
戸塚 愛斗	掛川市	沢 菜々子	弘喜	袋井市
山梨 楓奈	袋井市	天野 弘喜	彩未	熊本市
山田 怜奈	袋井市	天野 芳哉	神馬みずほ	浜松市
吉井健太郎	湖西市	萩田 紗礼	郁哉	袋井市
安竹 恵吾	浜松市	萩田 紗礼	郁哉	袋井市
高橋 蒼馬	袋井市	花井 郁哉	紗礼	袋井市
松田 愛子	掛川市	野口みのり	彩華	浅羽町
鈴木 健太	磐田市	石川 羽南	幸奈	愛知県
三倉 立雅	浜松市	倉本 幸奈	琉唯	森 町
高橋 佳子	東京都	鈴木 幸奈	希歩	掛川市
瀧下 奈央	森 町	田口 聖貴	結衣	浜松市
鈴木 唯那	磐田市	萩田 結衣		
鈴木希々華	袋井市			
佐藤 綾音	袋井市			
土屋 秀斗	袋井市			
渡邊 裕哉	浜松市			
森下陽日季	浜岡町			
松本 阿弓	袋井市			
青島 匠	川崎市			

○当社では、お子様の命名を申し受けております。



# 沖縄「静岡の塔」慰霊祭奉仕報告

権柄宜 鈴木 勝弘

去る十一月十一日より十四日にわたり、(財) 静霊奉賛会主催の沖縄「静岡の塔」慰霊巡拝団に参加致しました。この巡拝団は神道式と仏教式とで各年毎に行われます。本年は神道式で齋行され、県内神職の代表の一員として慰霊祭に奉仕することとなりました。



沖縄・静岡の塔

十一月十一日巡拝団は県下各地より名古屋空港へ集合、午後一時半には那覇空港に到着後、神社関係者は波上宮に正式参拝し未安宮司様より御由緒をお聞きし、一日目は暮れました。

十二日参列者より一足先に準備のため慰霊祭会場へ向いました。慰霊祭が行われる静岡の塔は、糸満市摩文仁の丘にあり沖縄をはじめ南方地域で戦没された静岡県出身者四万有余名の御英霊が祀られており、(財) 静霊奉賛会が沖縄県人会の方々のご協力のもと清掃・管理されています。

その御前で、齋主に焼津神社鈴木宮司様を含む五名の祭員、静岡県神社庁職員二名、御遺族の方等約八十名の参列のもと、八百万の神々と御英霊の御神慮により慰霊祭は無事執り行われました。皆深い感銘を残しつつ、各所を巡拝、視察後十四日は帰静しました。

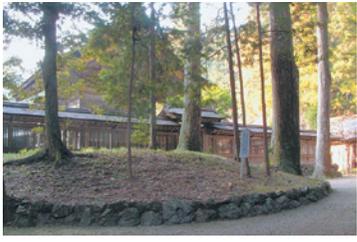
日本を守るため、尊い犠牲になられた方々により今の平和と繁栄があるのもそのおかげです。世界平和を祈るとともに、日本を守るため尊い命を捧げられた英霊に対し感謝の誠を捧げ、御霊をお慰めできましたことに感謝致します。

## 古代の森シリーズ⑦

### 経塚遺跡

御本殿の裏側に、大きな経塚があります。経塚とは、教典を永く後世に伝えるため、経筒などに入れて地中に埋め納めて塚を築いたものです。

古く奈良時代の頃から神仏習合が行われました。各地の神社に神宮寺が建立され社僧が神に仕え、写経して経塚に納める風習が起るに従い、当社にも天台宗の神宮寺が建立され、経塚が造営されました。現存する経塚の規模は明治十八年(二八八五)に御本殿再建のため経塚の半分を削ったことにより長径二一メートル、高さ一、五メートルほどの楕円形のものになりました。元の規模を想定すると直径十五〜十八メートル、高さ二、五メートルほどの円形の大規模なものだったようです。この経塚を削った時に、平安時代末期の仁安三年(一一六八)の銘が入った経筒の外容器とともに、青銅製の経筒三筒、外容器に転用された常滑壺や渥美壺、蓋に使われたらしい山茶碗や大平鉢、また和鏡三面、太刀二振などが出土します。



経塚

した。出土により経塚の造築年代が分かるとともに経塚造営がこの地方に波及した時期を教えてくださいました。尚、遺物の一部は、森町指定有形文化財に指定されています。



経筒



外容器

### 新職員抱負



巫女 水野 寛子

十月から、小國神社に巫女としてご奉仕させて頂き、はや三ヶ月が過ぎました。神社の勤務は思っていたよりも大変で覚えることが多くとまどう事ばかりですが、皆様に教えて頂きながら毎日を頑張っています。

昨年の秋、初めて見た神社の紅葉はとてもしばらしく感動しました。この様な自然に囲まれながら仕事ができることは大変うれしいことだと思えます。立派な社会人になれるように精一杯がんばりますので、どうか皆様よろしくお願ひ致します。

「小國の杜・点描」

南天（なんてん）

メギ科ナンテン属 常緑低木

六月頃、茎の先に多数の白い小さな花を咲かせ、冬には鮮やかな赤い実をつけます。ナンテンの音から“難を転じて福とする”おめでたい木といわれます。咳止めや浴湯料、また、妊婦の安産祈願に床の下に敷いたり、赤飯の重箱の搔敷きなどに用いられ、災難除け、不浄除け・火災除けの縁起木として尊ばれています。参道の周辺で見ることができま



南 天

河津桜（かわづざくら）

バラ科サクラ属 落葉高木

早春、ふちの方がやや色の濃い淡紅紫色の大きな花を咲かせます。伊豆半島で見つけられた若木が、のちに静岡県河津町に移植され増殖されたことから“河津桜”と呼ばれるようになりました。カンヒザクラとオオシマザクラの仲間雑種と考えられています。



河津桜

ひのきごけ

ヒノキゴケ科

日本で知られているコケ植物は約千七百種類と見積もられ、全世界の種数のおよそ十分の一に相当するといわれます。当社境内にも多くの種が見られ、長久の時の流れや落着きを感じさせてくれます。そんな中でもヒノキゴケは、動物の尾のような愛らしい姿でイタチノシツポという別名もあります。



ひのきごけ

梟（ふくろう）

フクロウ目フクロウ科

羽根がふくれた鳥、昼隠居（ヒルカクロフ）などから転じたとか。ホーホー、ゴロスケホーホー”・“ホーホー、ポロキテホウコウ”と聞きなされる鳴き声からの命名であるとの諸説があります。不苦勞・福朗に通じ、頭がよく回転することから、商売繁盛や知恵を象徴する幸運を招く鳥といわれます。幼鳥はほとんど飛べないのに巣立ちをするそうで、御本殿前廊下で体を隠そうともせずのんびりと佇んでいたのので、近距離での撮影が可能でした。



ふくろう

巫女さんの想い

平成十四年は神社内もいろいろな変化がありました。新人職員が加わりましたし、祈祷を受けられた方を対照にした大祓いの人形のご案内など、初めての試みも数多く行なわれました。今年も参拝される方々が気持ち良くお参りできる様、温故知新で職員一同協力し、笑顔でご奉仕できるように心掛けたいと思います。(S)

編集 後記

○「玉垂 第七号をお届け致します。國學院大學の岡田先生より「古代の森・自然と人間との共生」という表題にて玉稿を戴きました。ご多忙の中ご執筆くださいまして厚く御礼申し上げます。皆様どうぞ味読ください。」  
○秋の写真コンテストには八二五枚もの応募がありました。詳しくは次号にてお知らせいたします。様々な角度から神社を撮影していますので、入賞作品の発表が楽しみです。

表紙写真について

冬の早朝に、社務所側から一の鳥居方面に向けて「参道」を撮影致しました。先人達が植えられ育てられた社叢を継承していくことは神社にとってとても大切なことです。

平成十五年二月一日  
「玉垂」(たまたれ) 第七号  
発行 本社本廳総長 工藤 伊豆  
発行 小國神社社務所  
郵便番号 四三三七―〇三二六  
住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一  
電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二  
FAX 〇五三八(八九) 七三六七  
印刷 (株)サイノオフィス エム・エス・シー